

ばんざい100号



会長 河野 静枝

椿の会の会長をさせていただくことになり考えてみた。椿の会はいつごろ出来たのだろうか？ いろんな人に尋ねてみたが定かではない。各人の記憶を繋ぎ合わせてみたところ、昭和49年11月1日には確かに手話サークルとしての基盤が出来ていたと見られる。それでこの日を椿の会の創立日とした。

以来20周年に当たる平成6年に記念事業を行なった。それまで椿の会会報を出してきたが、残念ながら号数の記載をしていなかった。これは調べようがなく、正確さを欠くため苦肉の策として20周年の記念日から“はたちと1号”と号数を数えることにした。それから早や8年、100号を数えるまでに至った。この間増刊することはあっても、ただの一度も休刊することはなかった。毎月発刊し続けてきたことは称賛に値する。これは広報部を設け委員の討議の中で活動してきたからに他ならない。個人が担っていたのでは、このように息の長い活動は不可能であったろう。長い年月の間には個人の負担に支えられていた時期もあり、徐々に体制を整え今日に至っている。たくさんの人達に支えられてきたことに改めて感謝の意を捧げたい。

会報は、椿の会の顔と考えている。各人の感想文や作文だけを載せて済ますのもいいだろう。しかし、文集とは違う。椿の会らしさが感じられるものとするため、毎月広報委員は頭を悩ませている。表情豊かな顔にするためにどしどし意見を広報委員にお寄せ下さい。また委員から取材依頼があれば快くご協力下さい。

100号ばんざい！ そして、ありがとう！！

